

## 剣岳一周

—室堂～真砂沢～長次郎谷右俣往復～三ノ窓谷～池ノ谷左俣～馬場島—

メンバー L, 記 酒井 正裕, 石田 彰 (会員外)

山行期間 平成5年5月29日から6月1日までの4日間

平成元年5月上旬に剣沢、三ノ窓谷及び西仙人谷を滑った次のステップとして、池ノ谷左俣のスキー滑降が常に私の頭にあり、この後幾度もこの計画を立てたが、天候やメンバーが揃わない等の事情により断念せざるを得なかった。このような失敗の連続から、実施時期を天候と雪質の最も安定する5月末とし、石田の協力を得て今回の山行を成功させることができた。

5月29日 晴のち曇り

10時、信州側からアルペンルートを利用し室堂を出発する。今年は予想はしていたものの、過去に見たこともないほど積雪量が多い。5月末というのに、浄土川は完全に雪で覆われ、平年の4月末よりも多いだろう。これほどとは想像していなかったので、雷鳥沢のキャンプ指定地まではミクリガ池を経由して滑り降りたが、こんな事であれば、室堂から一ノ越方面に少し進み、浄土川に沿って滑り降りれば良かったと思った。

10時40分、雷鳥沢のキャンプ指定地着。ここから剣御前小屋へは、重荷と体力不足そして寝不足に悩ませられ、やっとの思いで小屋へたどり着く。天気もいいので、めいめいトカゲを決め込む。

14時30分、剣御前小屋発。稜線は雪が無く夏道を歩く。別山の頂上周辺も同様であり、ここからのスキー滑降は無理だと思われたので、楽をしようと巻道を行くが、途中の雪溪をトラバースするところが悪く少し緊張させられた。ここは素直に稜線を行くべきであった。

15時15分、真砂沢源頭、標高2800m地点着。ここは、稜線からの道と巻道の出合うところであり、また、今回の真砂沢の滑り出しでもある。

15時30分、真砂沢滑降開始。上部の斜面は、摺鉢状で斜度も28度と少し急ではあるが、広い斜面は快適そのものである。この斜面が終わると、標高2500m辺りで両岸に岩があり若干谷が狭くなるが、また直ぐに広く快適な緩斜面が続くようになる。やがて、谷がやや狭くなり、ところどころ小さなデブリが出てくると剣沢の出合いは近い。

16時10分、剣沢出合い着。標高差1050m、40分間の滑降の快適さは、今回の三つのルートでは一番だった。明日のこともあり、長次郎谷出合いまで登り返す。

17時、長次郎谷出合着。

5月30日 曇り

天気予報では午後から天気が崩れるとのことであったが、視界も良いので予定通り長次郎谷右俣をつめることにする。

6時45分、出発する。熊ノ岩までは緩く広い斜面の単調な登高に終始する。

8時55分、熊ノ岩下部着。ここは周囲からの雪崩や落石の心配もほとんどなく、平坦で幕営も可能である。ここから見る長次郎谷は熊ノ岩から右俣と左俣に別れており、右俣の方が左俣と比べ傾斜が急でやや狭いので、右俣の方が技術的にやや難しいだろうか。

右俣は、上部に斜面を左右に二分する岩があり、右俣出合いからこの岩までの辺りは稜線左からのデブリで斜面の中央が荒れ気味である。この岩の右を抜けると、稜線まであとわずかとなり、斜面の傾斜も益々急になってくる。

11時5分、池ノ谷乗越着。当初の計画では、長次郎谷滑降後再度登り返し、池ノ谷ガリーを滑ることとしていたが、池ノ谷乗越から見ると予想以上に斜面が急で狭いことからあっさりと飽きらめ、近藤岩から三ノ窓谷を登ることに変更する。

11時20分、長次郎谷右俣滑降開始。滑り出しの標高差200mは、平均斜度38度の急斜面であるが、右俣は左俣より狭いとはいえ、十分な広さがあり雪面も荒れていないので快適に滑る。先程の岩から右俣出合いまではデブリを避けて八ッ峰側に寄って滑ると、熊ノ岩まであっさりと着いてしまった。熊ノ岩から長次郎谷出合いまでは、広い緩斜面で

あることから各自思い思いに滑る。やがて、雪質が悪くなったと思うまもなく、出合いの天場に着く。標高差980m、アルペンムード一杯の約45分間のスキー滑降であった。

13時50分、天場を立ち、近藤岩に向かう。この間は、例年であれば真砂沢小屋先からシートラーゲンせざるを得ない箇所が出てくるのであるが、例年になく積雪量が多いことから、標高1640m付近で小さく高巻いたほかは、苦勞なく14時40分に近藤岩に着く。

5月31日 晴

4時45分、今日はなるべく早めに下山したいため、早めに出発する。三ノ窓谷は、中下半部がデブリに覆われているため幾分登りづらいが、長次郎谷より傾斜が緩く、上部は比較的登りやすい。

10時10分、長次郎谷と同様に単調な雪溪の登高に終始して、三ノ窓着。

10時35分、三ノ窓からいよいよ池ノ谷左俣の滑降を開始する。滑り出しは、斜面中央に岩があり急（滑り出しから標高差200mは平均約34度の斜度）で狭い斜面であるが、雪の状態が良いのであまり危険を感じない。しかし、池ノ谷上部の標高2200mまでは小石が雪溪上に散乱しており、これを避けて滑る。これより下は斜面も広くなり、小石もほとんど落ちていないので、快適なスキーを楽しむことができる。

11時5分、二俣着。ここは、右俣の出合うところであり、広々としている。時間的にも余裕があったので、ここで一時間以上ものんびりする。休憩後、なおも広い斜面を快適に滑るが、標高1500m地点で小窓乗越への登り口を捜すため一旦スキーを脱ぐ。しかし、なかなか見つからないため、ここで40分ほどタイムをロスする。

13時、1470m地点から小窓乗越へのコンタクトラインを登ることにする。登りの途中、何とか登山道を見つけることができたが、この登りは、雪溪を50mほど登り、露岩の出ている登山道をたどったのち、最後は半ば藪漕ぎとなった。本来であれば、それほどたいしたことのない登りであるが、スキーと重荷が邪魔になることに加え自由の効かない兼用靴で登るといふ悪条件からザイルを使用して登ることとなった。このため、予想以上に時間がかかった。

15時、小窓乗越着。ここから白萩川の雷岩めがけて夏道を下降する。道は比較的明瞭であり、迷うようなところは余りないが、急な道なのでスキーを引っかけないように、ほとんど後向きになって下降する。

17時30分、雷岩着。予想以上に遅くなったので、ここで幕営する。

6月1日 快晴

7時、雷岩出発。白萩川も例年よりはるかに雪渓が残り、遡行に不安を感じたが、結果的にはかえって歩程がはかどった。

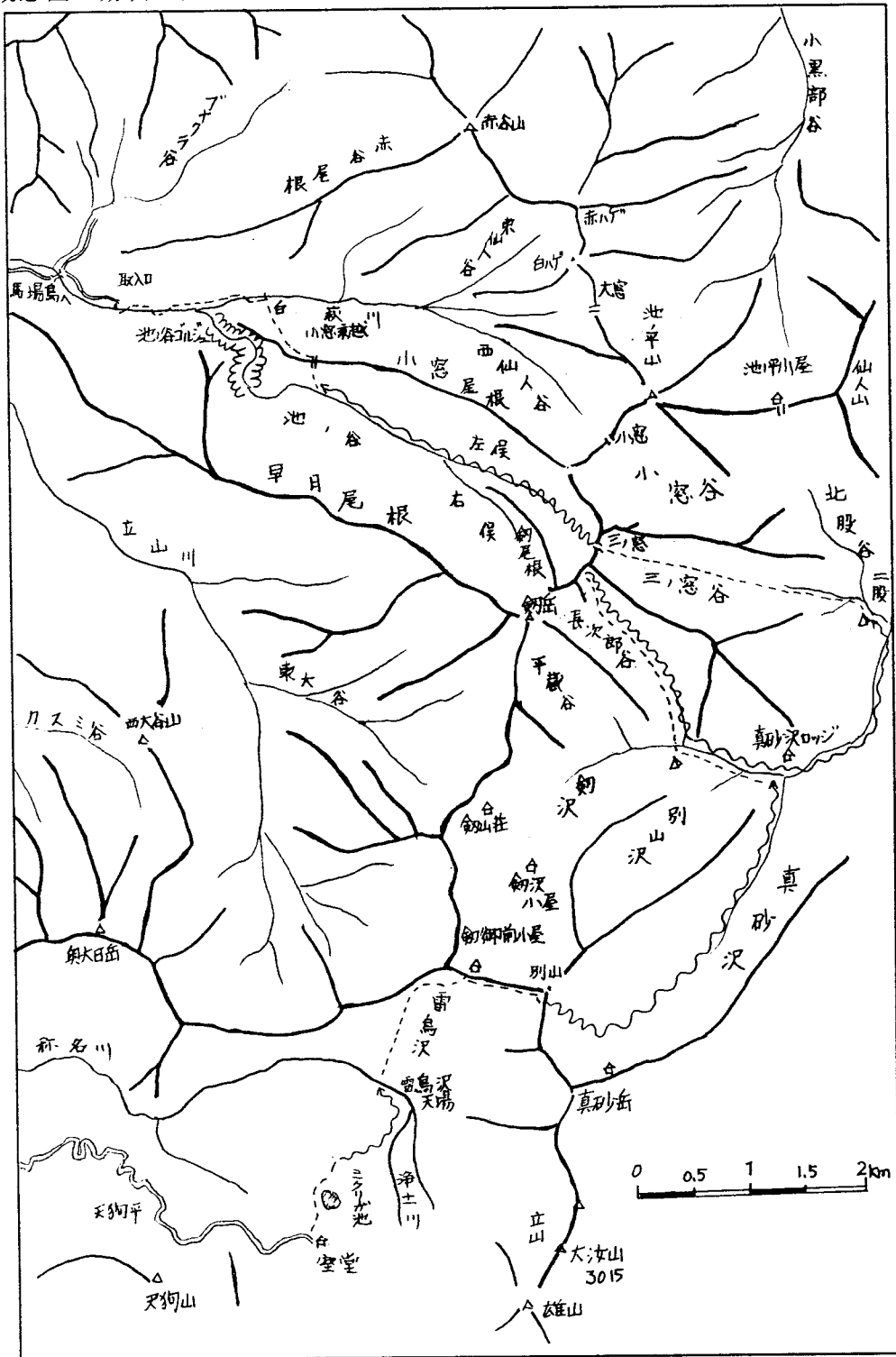
8時10分、雷岩から5回の渡渉で取入口着。

8時30分、馬場島着。

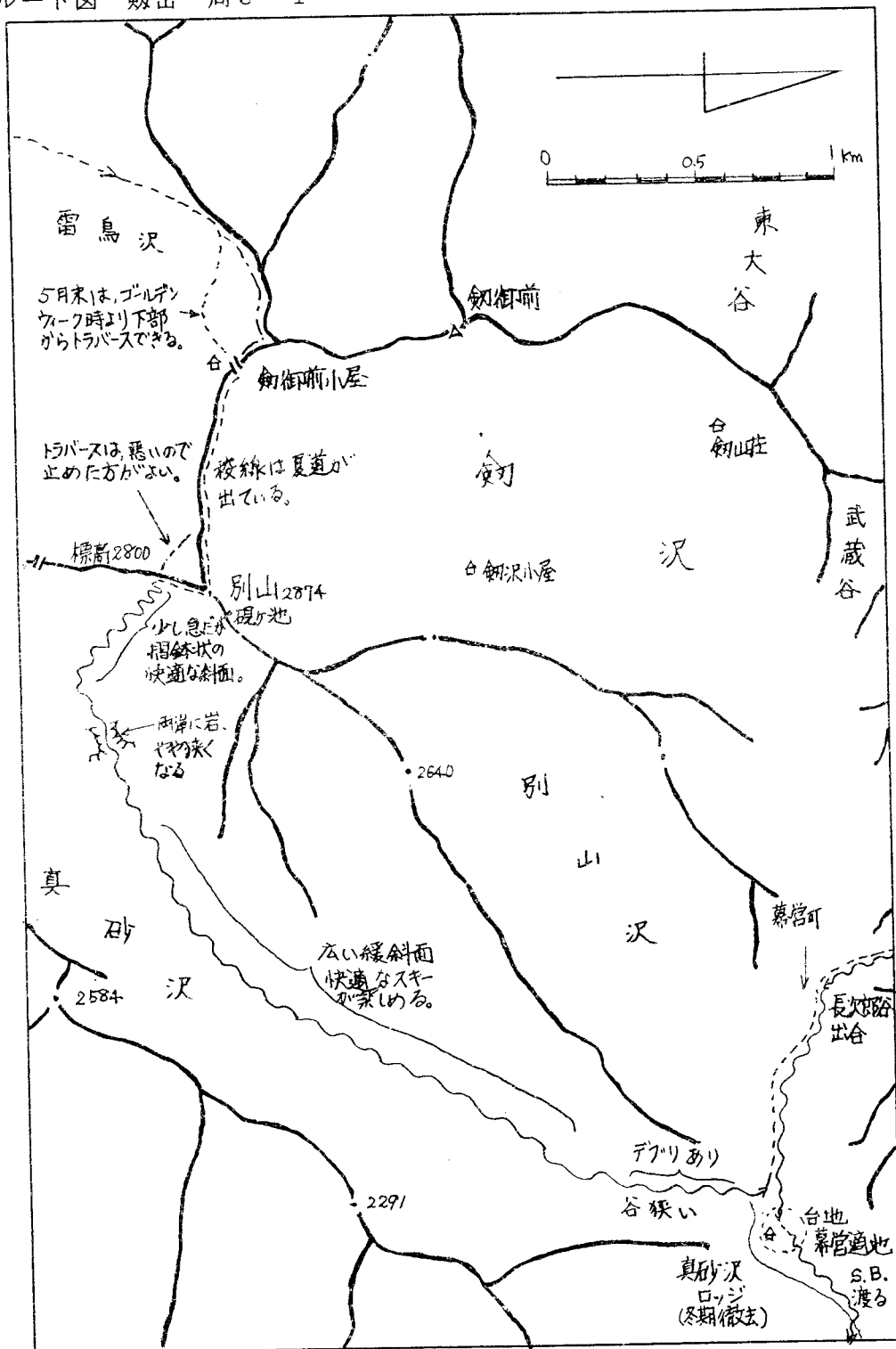
振り返ってみると、あくまでも快適な滑りのできる真砂沢、アルペンムード一杯の長次郎谷右俣そして豪快でシビアな池ノ谷左俣と、剣岳のルートを代表するそれぞれ特色ある谷を滑ることができた充実した山行であった。

また、池ノ谷左俣についてはスキー滑降の記録を私自身見たことがないが、その内容も濃く、大窓から白萩川へ滑り込むルートのようにもっと滑られても良いのではないかと思う。しっかりしたルートファインディングと最も適した時期を選べば一部のスペシャリストのみに許されたルートでないことは明らかであると思う。

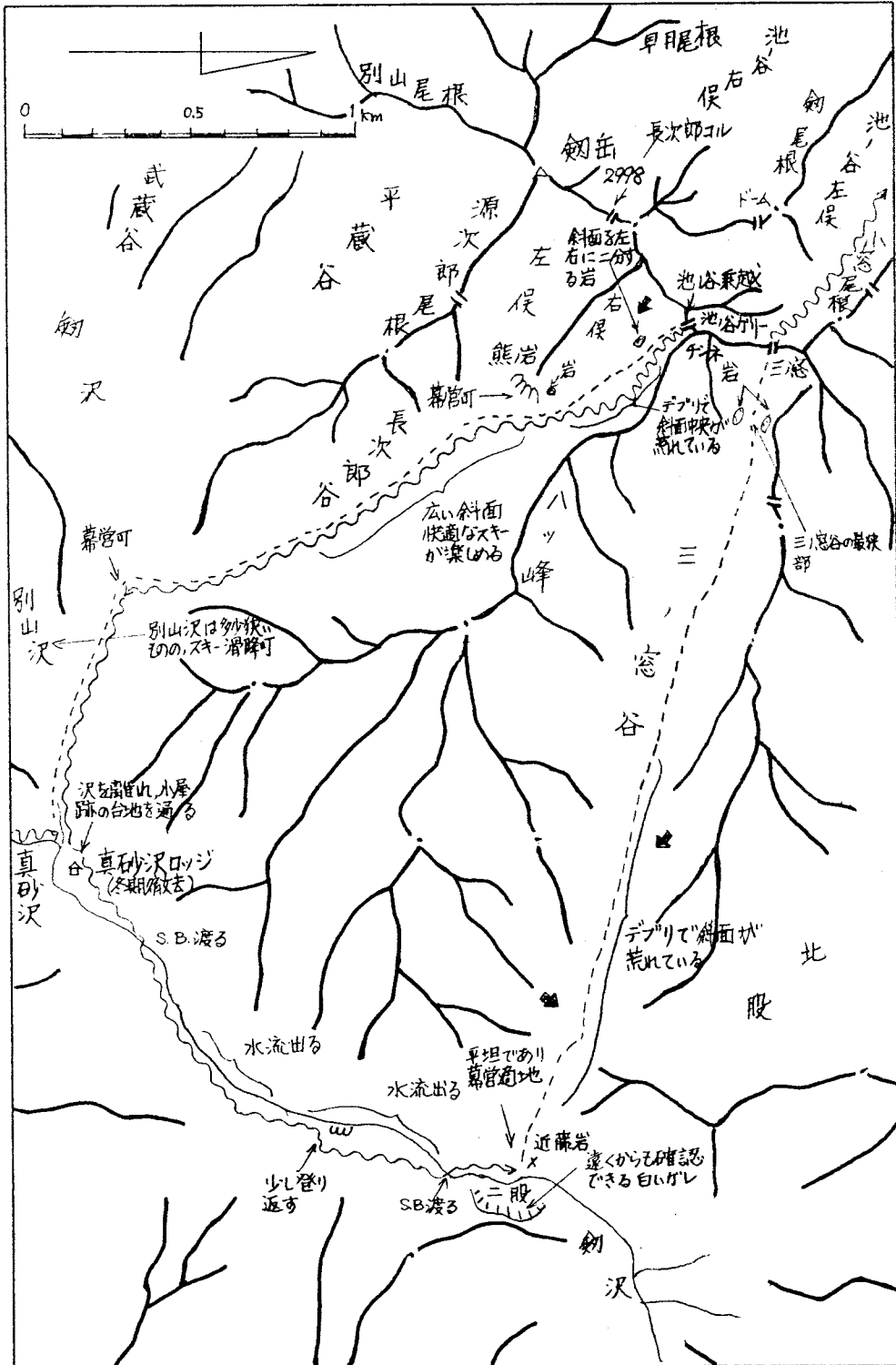
概念図 劔岳一周



ルート図 劔岳一周3-1



ルート図 劔岳一周3-2



ルート図 剣岳一周 3-3

